

## 農林漁業現地事例情報「食料自給率向上に資する取組事例」

行動計画の項目に基づいた分類：イ 食育の推進の取組

取組名：地元産大豆を使った体験事業による食育の推進

取組主体：J A十勝高島青年部（北海道・池田町）

### 1 取組の背景

J A十勝高島青年部は、平成17年から池田町立高島小学校（児童数20人）で実施している農業体験に協力を行い、小麦粉を用いて「うどん」と「パン」、甜菜を利用したシロップづくりなど加工体験を行ってきた。

20年度からは「教育ファーム」のモデル団体に採択され、体験事業を通じた食育の推進を目指している。

### 2 取組の具体的内容

同青年部は、大豆の栽培、味噌、豆腐づくりなどの加工体験をテーマに「教育ファーム」のモデル実証地区に応募、道内では同青年部を含む12団体（9町村）が採択を受けた。

児童達は、同小学校の畑（1a）で栽培した青大豆で、味噌と豆腐づくりに挑戦し、同青年部員10人と昔ながらの「唐さお」で脱穀を行い23kgを収穫し、その後、J A女性部の協力で9kg分を味噌に、14kg分で豆腐をつくり、その過程で、搾りたての豆乳の味見などを体験した。

また、市販の牛乳を利用したアイスクリームづくりや、同青年部員が「大豆のはなし」、「牛乳のはなし」と題し説明を行い、大豆や牛乳に対する理解を深めた。

給食の時間には、自分たちがつくった豆腐を食べ、地場産大豆の味を体験した。

なお、21年2月に札幌市において道内モデル団体の実践報告会が開催され、同青年部も活動を報告することになっている。

### 3 取組の具体的効果

農作物の生産過程や収穫までの作業を体験することで、児童たちに農作業の大変さや食べ物の大切さを伝えることができ、理解が深まった。

青年部員も昔の農機具等を使うことで、現代の機械化された農作業とは違う再発見があった。

青年部の中から担当を決めて、児童たちに作業の指導、大豆と酪農の説明等を行ったため、責任感の向上が図られた。

### 4 今後の展開方向

今後も小学校との連携を深め、1年間の継続した活動（は種から収穫、加工体験まで）により、児童たちに農業と食べ物の大切さを覚えてもらいたい。

同じく「教育ファーム」のモデル団体である同町 J A 十勝池田町青年部と情報交換を行い、活動の参考としたい

## 5 取組に係る問題点と解決策

同取組に対して、青年部員の参加状況に偏りがあるため、事業に対する理解を深めて青年部全体の活動としたい。

児童達の食物アレルギーに対応するため、事前から慎重な作物選定を行っている。



は種作業①



は種作業②



収穫作業



唐さおで脱穀



豆腐づくり



味噌づくり



大豆や酪農について説明



みんなで給食

【情報収集官署】北海道農政事務所 池田統計・情報センター

連絡先：015-572-2239